

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 74

文：田崎 敬修

おおつきたろうざえもん おおつきたて 大槻太郎左衛門と大槻館

室町時代に大槻館という館が野沢本町、現在の遍照寺にありました。館の大きさは東西約61m×南北約43m。北側は急崖ですが、それ以外は平地になるため幅約15m～17m、深さ約4m～7mのかなり大きい空堀が巡らされ、堀の内側には土塁があり、出入口は西側と南側に1つずつありました。現在、北側の急崖は当時のままで土塁の一部も残っていますが、空堀の大部分は埋められ現道のクランクの部分にあたります。この館には延徳年間(1489～92)の頃、地頭の伊藤長門守盛定が住んでいて伊藤改め大槻を名乗ったといひます。大槻に改めたのは、出身地である郡山市大槻の地名説と近くの檀家寺に大きな楓の木があったためという2つの説があります。

永禄5年(1562)、芦名氏と同族の大場太郎左衛門政通(大槻館に住んで大槻姓を名乗ります。後に荒井館に移ることになります)が、会津の盟主芦名盛氏に100貫文の地からわずか30貫文の地(野沢本町・野沢原町・茅本)に左遷されます。天正6年(1578)2月、ついに大槻太郎左衛門は西方(三島町)の娘婿の地頭山内右近と阿賀川左岸域の地頭たちに呼びかけ芦名盛氏に反旗を翻したのです。この時、同盟を断ったのが、後年子孫が下野尻の肝煎になった天屋の満田主計盛胤です。どう見ても勝ち目はないように思えますが、越後の上杉謙信が只見方面から侵入し、挟み撃ちにするという作戦だったようです。しかし、この作戦は山内右近の密書が盛氏に漏れ渡り、盛氏は先手を打って大槻太郎左衛門討伐軍を只見川右岸の舟渡と柳津に進軍させたのです。2月12日、盛氏軍出撃の報を受けた太郎左衛門は急遽兵を集めますが、西方の地頭山内右近と上小島の地頭成田氏や夏井(喜多方市高郷町)の地頭赤城玄蕃ら少数でした。片門に出陣しますが、西方の山内右近が微勢のため陥落寸前の報を受け援軍に向かいますが、時すでに遅く右近は自害したのです。太郎左衛門の一族郎党30数名は大雪の中、越後の上条へ逃げようと大沼郡宮崎村(金山町)分種子池淵に着きますが、ついに盛氏傘下の川口村(金山町)地頭川口左衛門佐に討たれてしまいます。天正6年(1578)2月16日のことでした。



大槻館の絵図(個人蔵)



(参考文献『西会津町』)

今月の表紙

今月は、こゆりこども園で5月9日に行われた交通安全教室から。教室の最後には、代表園児から講師の皆さんへ「いつも見守ってくれてありがとうございます。感謝の言葉がありました。」という(4ページに関連記事)

お詫びと訂正

5月号9ページの「町民ギヤラリー」出ヶ原和紙作り講座」で、佐藤カツ子さん(戸中)は、渡部カツ子さん(戸中)の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集後記

今月号もお読みいただきありがとうございます。今月は農業公社の設立を特集しました。町の農業と言えば、私はお米が浮かびます。田植えの時期を迎え、稲の苗が並んだ水田の風景を撮りに行きたいなと思っています。(伊藤)